

日陰沢

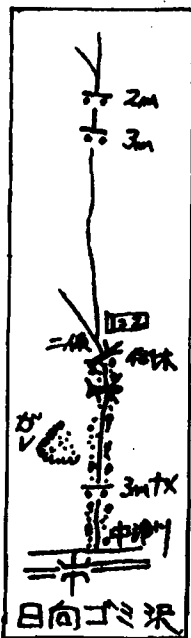
日陰ゴミ沢左俣左沢

1984年7月29日  
L.

二俣から右沢の出合まで、快適な滝登りとナメを楽しむ。二俣で小休止後、左沢に入る。いきなりの4mの滝は、何なくパス。このあと、ナメ状の小滝が続き、すべて直登する。沢にヤブがかぶってきたあたりから尾根めざして左の支沢に入る。10分くらいのやぶこぎで尾根に出て、秋遠沢右俣の下降に移る。

(記・)

[タイム] 二俣(11:15)→右沢出合(11:30)→尾根(12:15)



日向ゴミ沢(下降)

1984年7月21日  
L.

尾根から5分も下ると、日向ゴミ沢に出る。源頭部は樹林帯であり、ヤブは少ない。

9時55分、二俣を確認して先に進む。2~3mの小滝をクライミングダウンし、10時20分再び二俣。

これより中津川出合までは、平坦なゴーロ状となる。名前のごとく陽があたって明るい。全く平凡な河原歩きのごみ沢であった。

(記・)

[タイム] 尾根(9:30)→中津川出合(10:40)

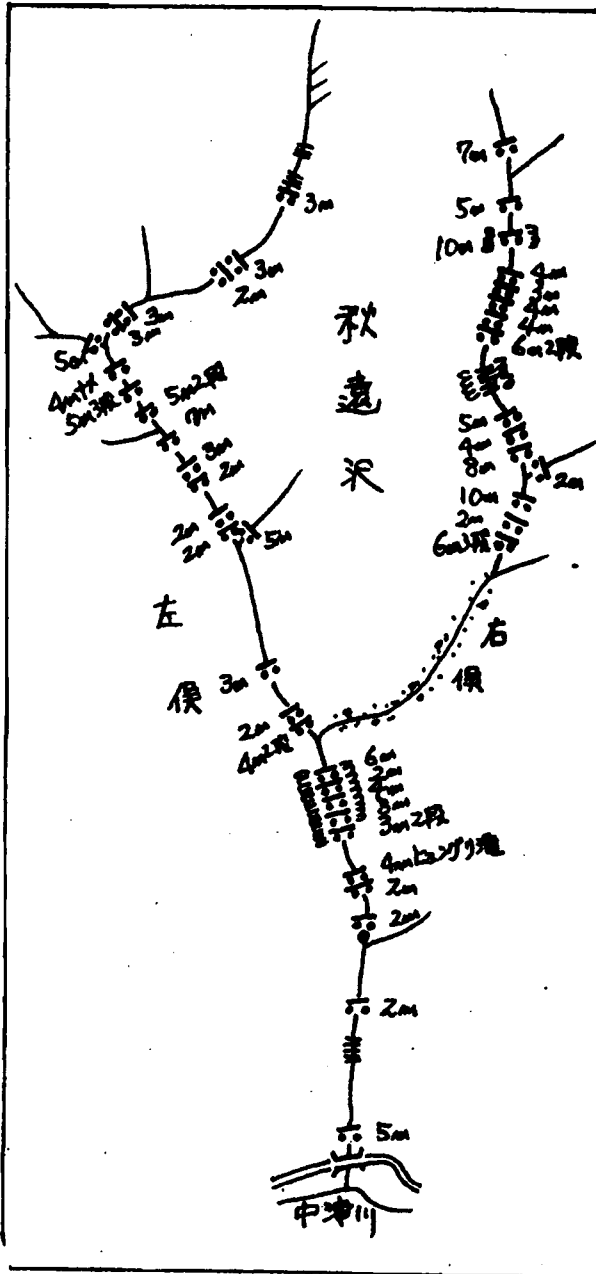
秋遠沢右俣(下降)

1984年7月29日  
L.

出合から最初の滝がのぞめた。この滝はなんなくパスできたが、先が期待できそう。意気あがる。7:30身仕度をととのえて出発。

ナメや小滝を越えて進むと、4mヒュングリの滝、中央を登る。ここらあたりからいよいよV字峡となってくる。そして3~6mの滝の連続。いずれもバランスやフリクションで越える滝である。帰りにここを下降することを考えると、少々心配になってきた。

8時、二俣。左俣に入る。2段4mとそれに続く小滝を越えて進むと、まもなく第二の連続帯。いずれも順層の滝で、直登できる。



次ぎの二俣を右に入り、小滝を越えて進むと、そろそろヤブがうるさくなってきた。やがて源頭。急なルンゼを登って尾根に出る。

尾根にはかすかな踏跡が残っていた。現在地を確認して、日陰ゴミ沢に下る。

(記...

【タイム】 秋遠沢出合(7:30)→二俣(8:00)→進行終了(9:25)

### 秋遠沢右俣(下院)

1984年7月29日

I

12:15下降開始。ガレ場をブッシュにつかまりながら下る。15分で秋遠沢右俣の源頭に出る。源頭はウルイの大群落。ちょうど花の盛りで、とにかくきれいである。

水が出てくると、すぐ7mの滝。そして左岸から支流を合わせた先には次々に滝がかかる。5m前後の滝がほとん

どで、全てクライミングダウン。

沢がU字峡状になった先も連瀑帯が続く。最後の6m三段滝を下ってようやく連瀑帯も終了。大きな滝はかからないが、沢登りの楽しさを十分に満喫できた。

連瀑帯を終えると、あとは二俣まで倒木の多い沢の下りである。13:35二俣着。これより本流の連瀑帯をクライミングダウンで下る。思ったより楽に降りられた。14:00林道に出て、今日の行動を終える。

(記